

# 北海道森林管理局長 着任あいさつ 宇野 聡夫



4月1日付で北海道森林管理局長に就任した宇野です。よろしくお願ひ申し上げます。

『北の森林 国有林』を読んでいただいている方は森林や国有林に何らかの係わりや関心のある方も多い

かと思いますが、そうでない方も含めて皆さんは北海道の森林にはどのようなイメージをお持ちでしょうか。北海道の土地面積に占める森林は約7割で、我が国全体の森林率とほぼ同じ割合ですが、北海道ではまとまりをもった森林が広がっていることや、比較的なだらかな地形の所にもあることが特徴として挙げられるのではないかと思います。

普段の日常生活ではあまり森林を意識することも多くないかもしれませんが、北海道内を移動する際に利用する鉄道や道路は森林に囲まれたところも多く、本州からの玄関口となる函館から鉄道で北に向かうとすぐに大沼周辺の森林が車窓に広がりますし、新千歳空港から札幌に向かう高速道路もなだらかな森林が広がっているところを通ります。道外から訪れた人たちにとっては、こうした風景に北海道らしさを感じるでしょうし、峠から見渡せる広大な森林を目にして北海道の雄大さを感じることも多いのではないのでしょうか。

こうした北海道の森林のうち森林管理局が管理する国有林は約55%を占め、その多くは奥地脊梁山地や水源地域の山々にある天然林です。一方、約2割を占める人工林は昭和30年代に造成されたものが多く、成長したトドマツやカラマツといった針葉樹は循環して利用できる持続可能な資源として活用していく時期を迎えています。植栽した針葉樹の森林に自然に生えてきた広葉樹が入り混じっている森林もあり、北海道ならではの景観を作りだしています。

北海道の森林の植生は亜寒帯性の常緑針葉樹と冷温帯性の落葉広葉樹が混在しており、植物学者の舘脇さんは汎針広混交林地帯と名付けました。亜寒帯に本拠を持つ針葉樹と温帯から北上してきた広葉樹の勢力がせめぎ合っている地域ともいえるようです。

近年、生物多様性などの観点から針葉樹の人工林を広葉樹の入り混じった森林に移行していく取組も行われており、自然の力を活用してどのように将来の森林づくりをしていくかという壮大な取組であると思います。森林に求められる役割が多様になっている中、資源として活用していくことも含めて、地域に貢献できるよう北海道の国有林の管理経営に取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様からのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## ● 略 歴 ●

平成 2年 3月	北海道大学農学部林学科卒
平成 3年 4月	農林水産省入省（I種・林学）
平成 27年 4月	林野庁森林整備部計画課首席森林計画官
平成 29年 7月	林野庁国有林野部業務課技術開発調査官兼 林野庁国有林野部経営企画課付
令和 元年 10月	林野庁国有林野部業務課長
令和 3年 7月	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備 センター審議役
令和 5年 7月	森林技術総合研修所長
令和 6年 4月	国立研究開発法人森林研究・整備機構理事
令和 8年 4月	北海道森林管理局長



国民の森林・国有林